

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は14名ですが、議事の都合により、本日5人、8日5人、9日4人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。所定の時間内に終わるように質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。〔18番 松尾徹郎君登壇〕

○18番（松尾徹郎君）

おはようございます。

新年度予算案編成時期を迎え、改めて、市長公約と市政運営について、質問いたします。

バブル経済崩壊後、国の財政状況により、自治体にとって右肩上がりの時代は終わりを告げたとされており、その後、市町村合併が全国的に行われ、その間、高齢化も一層進み、社会保障費の増加、また、近年に至っては著しい少子化と、人口減少が大きな課題となっております。

糸魚川市は、高度経済成長時代よりこれまでの間、国の補助事業を有効活用することで、公共施設整備、経済活力の維持、雇用の確保など、ハード事業を中心に発展してきた経過があります。しかし、現在に至っては、厳しさが増す財政状況の中、ハード整備事業だけでは経済発展や地域振興に無理があると言わざるを得ません。

近年、科学技術の発達、産業、経済、社会が大変なスピードで変化し続けているだけに、将来を見通すことはなかなか困難ではあると思いますが、そのような中でも10年先、あるいは遠い将来を見据え、今から将来ビジョンを持つことは極めて重要であると考えます。

こうした中、各世代が求める行政サービスは様々であり、例えば、子育て世代は子育て環境や教育環境の整備、高齢者においては福祉施策の充実、また産業界においては産業振興策とそれによる経済活性化策など、市民要望は各世代、各分野、地域により多岐にわたり、行政施策に対する期待は大きいものがあります。

久保田市長の公約には、市民参加型のまちづくりを「縮充」という考え方で推進するとあり、人口減少が進む中、悲観するのではなく、社会・地域・生活の質を充実させるまちづくりを目指すとして記されておりますが、私も同感であります。そこで以下、伺います。

(1) 産業面においては、「第一次産業を基盤として経済を活性化する」とありますが、具体的にはどのような施策を展開したいと考えておられるのか伺います。

(2) 「観光資源の整備やふるさと納税の活用により、特定資金源を確保する」あるいは、「第一次産業からのイノベーション、糸魚川・能生・青海、3地域の特性を生かした振興策、地域の魅力を引き出し、充実した社会を目指す」とありますが、この点について具体的に伺い

ます。

(3) 教育については、「子供たちが学びやすい環境を整え、学校再編や部活動の地域展開を推進し、少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制を構築する」とあり、学校再編、地域展開への移行、多様化への対応、施設の再構築、大学専門学校等への連携、キャンパス誘致など、少子高齢化への対応、スポーツ・文化活動の維持などについても触れられており、詳細について考えを伺います。

(4) 公約には、「市民とともに、住みたいまち、住み続けたいまちを実現するために、未来を見据え、10年後、30年後の糸魚川市を共に創りましょう」と記されています。今後、さらなる人口減少とインフラの老朽化も危惧され、また、産業構造の変化など、様々な懸念材料が考えられます。行財政改革をはじめ、限られた財源の中「将来を見据え、当市の課題に対し、今求められているものは何か、何を改革し、推進すべき施策は何か」、市政運営について考えを伺います。

よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

ただいまの松尾議員のご質問にお答えさせていただきます。

1点目につきましては、農産物や水産物をブラッシュアップし、付加価値を高め、観光面との連携を図りながら、地域経済の活性化を図ってまいります。

2点目につきましては、糸魚川・能生・青海それぞれの自然や歴史、文化といった地域資源を磨き上げ、観光の振興を図ってまいります。

また、ふるさと納税については、単なる財源確保ではなく、全国に糸魚川の魅力を発信することにより、交流人口、関係人口の拡大につながることから、引き続き、生産者の皆様と共に取り組んでまいります。

3点目につきましては、子供の学びや成長を第一に考え、質の高い教育環境の整備や学校再編に向けた検討を進めてまいります。

また、社会教育団体及び学校部活動が連携し、将来にわたり、子供たちがスポーツ・文化芸術活動に取り組んでいける体制づくりを進めております。

4点目につきましては、限られた財源の中で、医療・福祉・教育の基盤整備、産業振興、安全で安心なまちづくりを柱に、「選択と集中」による施策を推進する必要があります。

市民の皆様と対話しながら、10年後、30年後を見据えた持続可能な糸魚川の実現に向けて取り組んでまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

初めに、市長公約の中で縮充という言葉がありますが、財政規模が限られている市長としての重点施策は何か。今、答弁いただいたのは、この久保田市長の選挙公約の中身が主だったかと思いますが、具体的にお聞きしたいと思いますけれども、政策効果の高い分野に優先的に取り組むべきであると考えますが、市長の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

政策分野の高いという意味合いをもって言えば、現時点で、まず、スタートアップという言葉が広義に使われますけれども、これからの糸魚川は、10年後を見据えた糸魚川づくりにおいては、まず、医療・教育、それに伴って、かついろんな職業の部分、若者世代が選択できる職業の部分、そして住居の部分、その部分をうまく複合させながら、いかにそういう分野において、重点的にまず選択をしてつなげていくかという部分を考えております。よく言われる医、職、住と、医療と職業、住居という問題を重点的に、まず柱として考えていきたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

それでは（１）、（２）をまとめて再質問させていただきます。

まず初めに、第一産業を基盤として、経済を活性化するとありますが、農業、林業、水産業について具体的に、農業でしたらどういうふうにするのか、それぞれについて市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

おはようございます。

お答えいたします。

一次産業につきましては、やはり全国的な傾向といたしまして、高齢化、担い手の不足というのが顕著になっております。糸魚川におきましても、やはり高齢化、担い手不足というのが大きな課題として捉えております。この恵まれた自然環境の中、今まで築き上げてきました一次産業を、これからもさらに発展させるためには、担い手の確保という部分で、やはりスマート農業の振興ですとか、産業の基盤の整備といたしたものに力を入れてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

先ほどの市長の1回目の答弁で、水産物や農産物などのブラッシュアップ、あるいは付加価値を高める取組等、公約にも書いてあるわけですが、観光との連携を深めるということで、地域資源を活用して、経済循環を図っていくとあります。これについては、大いに期待したいと思いますが、農政の大転換期を迎えていますが、今後も農地の基盤整備、あるいは水路等のかんがい排水設備等、整備しなければならない箇所が市内に多くあります。整備するに当たり、関係する農業者の負担金も高額になる場合があり、農業を諦める場合も出てきます。現状はどうかお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

担い手への農地の集積、集約の割合に応じまして、農業者負担が軽減できる補助事業ですとか、あと各地域へ交付しております中山間地等直接支払交付金の負担金の基金としてですね、積み立てるなど事業の採択要件ですとか、地域へ交付されております交付金の有効活用によりまして、現在、農家の負担軽減を図っているところでございます。今後も地域に最も適した負担軽減策を生産者の皆様と一緒に協議・検討しまして、事業の推進に努めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

日本の農家の平均年齢、70歳を超えているというようなことを聞きますけれども、後継者不在により農業をやめる農家が増加傾向にあります。市内における農家戸数、あるいは農業従事者数、耕作者の平均年齢、また、30代から50代の生産者は現在何人いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

現在、公表されております最新の2020年農林業センサスの値では、農家戸数が1,580戸、年間60日以上、農業に従事いたします農業従事者が1,047人で、うち、30代から50代は191人となっております。農業者の平均年齢というものは公表されておませんが、年齢階級別の人数から推計した結果でございますが、69歳程度というふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今数字を確認させていただきましたが、今この数字をお聞きして、市長は、今後10年先、農業どうなるのか。市長が今考える、一次産業に力を入れる。私はこれ賛成なんですが、市長、現在のところどのように思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現在の取り組んでいる部分については、高付加価値をつけられるような農業、いわゆるオーガニックビレッジとか、そういう観点において、いわゆる糸魚川の農業生産物が高付加価値をつけられるように仕組みをつくりたいという部分、それにはやっぱり現有の農業従事者だけではなくて、例えば大学だとか、そういうところからのお力を借りる。そういう部分の延長として、サテライトキャンパスだとか、お任せするファームの提供だとかということにおいて、やっぱり少しずつでも歩みを進めていければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

国も非常に頭の痛い問題で、農林水産省あたりは一生懸命やっておりますけれども、30代から50代の生産者が191人と。これが2020年の数字ですので、あれから5年たつてるということで、今後10年したときに糸魚川の農政がどうなるのか。これ非常に危機的な状況に、このままですと厳しい状況になると。

今、市長、答えられましたが、私もその付加価値をつける。あるいは六次産業化、後ほどまた質問させていただきますが、そういったものへの支援というのは非常に大事になるだろうと。これについて、行政として、その支援する覚悟があるかどうか、市長の考えをお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現在、今、第一次産業につきましては、いわゆる農業等の従事者、農林水産業等の従事者に付随して、建設業界がそこに関わってくるとかっていう、そういう部分で、いわゆる業界のコラボレーションを進めながら、やはり得手不得手、餅は餅屋という部分をさらにうまく合体させながら進めていくという部分、それは産業界全般に当方からいろんな部分で提案だとか打診をしていく中で、

協力していただけるような関係づくりを進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

確かに市長の答弁のように企業が参入することによって、私は、大分農業もどんどん変わっていくだろうなというふうに思いますし、期待をしております。

話は替わりますけれども、米をはじめ農作物を直接販売されている農家ってのはどのくらいあるのか、把握されてるのか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

農産物を直接販売ということになりますと、例えば縁故米、いわゆる親戚ですとかそういうところへ販売している農家もございますので、その農家数というのは正確なものは把握はしておりません。昨今の米の需要・供給の不足ですとか、インターネット等の普及を背景に、増加傾向にあるというふうには捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

この辺は、やっぱり把握すべきだと思います。やっぱり直接販売することによって、私は農家もかなり所得も上がりますし、そういう意味では農家に対する見方も、若い人たちが、考えが変わってくるだろうということだと思いますので、今の件については把握してほしいなと思います。

そして、園芸作物を生産する農家は増えているんでしょうか。

また、農業生産額、米の生産額、園芸作物の生産額及びそれぞれの出荷額について、把握されていれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

えちご上越農協が、当市で推奨します園芸作物、越の丸茄子、エダマメ、イチゴ、メロン、トマト、アスパラガスの7品目を栽培いたします中核農家は、年々、増加傾向にあると捉えております。

また、国が公表しております当市の令和5年度の農業産出額は17億2,000万円で、主なものは米が12億8,000万円、園芸作物が2億4,000万円となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今の答弁では、園芸関係が2億4,000万円という答弁だったと思いますけども、私は、前、あれは予算委員会でも質問したことがあるんですけども、最近、早川地区で新品種の梨を栽培して、非常においしいということを聞いておりますが、こういった新しいものに対する挑戦した農家、それから新品種をこれから手がけてやっていこうという積極的な農家に対して支援する、大いに支援するということは必要だろうと思いますけども、市長、これについてはどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

第1回目の答弁で申しましたスタートアップという部分、広義の部分で言えばスタートアップをしようという、そういう意欲のある部分については、基本的には支援という部分を考えなければいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

具体的にその支援というものをお聞きしたかったんですが、例えば支援策としては、当然、資金的な面とか、それから栽培技術のための研修会とか、そういったものへの支援をぜひ充実したものにしてほしいなというふうに思います。

先ほどスマート農業をという言葉が出ましたが、スマート農業を実践したくても、投資金額が非常に高額なだけに諦める方、あるいは実践できる農家が非常に限られてくるんじゃないかなと思うんですけども、スマート農業を実践している、市内でやっている農家はどのぐらいありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

農家は、多くの農機具を所有しておりますが、農家によっては所有する機械の1台のみが先端技術を搭載した農機具であったり、また別の農家では、所有する全ての機械が最先端技術を搭載しているケースなど、様々なことから、スマート農業を実践しているという具体的な農家数というのは把握できておりません。

ただ、高齢化や担い手不足に対しまして、無人化、省力化、効率化が図れるロボット農機の活用

は非常に有効だと考えておりますので、スマート農業については、これからも拡大していくのではないかというふうに見込んでおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今申し上げましたけど、やはり非常に高額だと私は思ってますので、これをやれる農家というのは非常に限られてくるだろうと、全部、例えばそろえるという。当市の場合、今申し上げましたが、小規模農家が多いということで、しかし、小規模農家でもスマート農業が実践できるような体制整備は必要じゃないのかな。

何を申し上げたいかというと、例えば地域で、全スマート農業に関する機種を、例えば行政が買い求めて、それを貸し出すとか、定額で、例えばそれやりたいという個人的な農家の方に対しても、リース代を頂きながら貸し出すとか。行政が、その農業支援策の一つとして、スマート農業の機種を用意して、調整してくれというような考え方ができないものか、あるいは支援する気持ちはないか、その辺市長、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

担当課とのそういう話も詰めていながらですが、私のほうから答弁できる部分としましては、ということかということ、小規模農家が1つのリースをした場合には同時期に、どうしても小規模農家が同時期にやらなきゃいけないんで、どうしてもリースになると、やっぱり利用頻度とか利用価値がやっぱりどうしても滞ってしまう可能性もあるという部分がお聞きしました。

それと、やっぱりリースをする際においては、いろんな法人化をして、全体的な部分の集団体制をつくった上でリースをするという部分において言えば、それは一つの効果的な運用ができるのではないかというふうに考えながら、今、経緯を我々自身も検討しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今市長の答弁のように、確かに一斉に使いたくなるというふうになると思いますので、これやっぱり1セットだけじゃない、行政だからこそできる、それが2セットなのか3セットのか分かりませんが、やはり行政がそこまで農業に対して期待をしているという、何ていうかな、期待を込めてやることも必要だろうと。あれを全部そろえたらどのくらいの金額になるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）



星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

ただいまのご質問につきましては、機械の購入費用だと思いますが、それぞれの農業の規模ですとか場所、いわゆる河原沿いとか中山間、条件がそれぞれ違うので一概には言えませんが、やはり全て田植から稲刈り終わるまでの機械ということになると、やはり数千万という金額が算出されるのではないかとこのふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

私は、あまりにも無理なことは言うつもりはないんですが、ただ、そのくらいの気持ちで農業支援をしてほしいなというふうには思います。これ、検討してほしいと思います。

それで、先ほど六次産業という言葉が出ましたが、実は六次産業化については、以前にも私、予算委員会でも質問したような気がするんですが、非常にこれは口では簡単に言いますが、なかなか大変で、収益を出すには数年かかると。五、六年以上はかかるのかな。その投資がでかければかいほど回収する期間も長くなるということで。

先ほど六次産業を手がけておられる方にちょっとお話を聞いてきましたけれども、やはり行政に期待するのは何かといったら、せっかく商品を作っても、例えば観光入込客が少なかったりなんかして、地元のやっぱり消費人口が少ないだけに、そういった、いわゆる販路拡大、あるいは販売していく上での、要するに入込客が少ないと、どうしても売上げができないということで、それが非常に、行政のほうから支援していただければという意見も聞いてまいりました。この点について、今現在の六次産業化の状況、何件ぐらいあって、私、以前に農林水産課から資料を頂いたことがあるんですが、たしか20件も行っていなかったかなと思うんですが、現状今どのようになっていますか、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

ただいま正式な細かい数字を持っておりませんが、今、議員言われるように、20件の中、十数件というふうに捉えております。今の状況でございますが、ここ数年、やはりコロナ禍のときには、やはりお米が非常に価格が下がってございましたので、六次産業ということで加工等を行ってまいりましたが、やはり昨年、一昨年あたりは、やはりお米自体の価格が高騰してまいりましたので、六次産業から、さらに今のお米を直接売るといような方向へ向かってきておると思います。

ただ、市といたしましても六次産業のためのパッケージングですとか、六次産業された製品の加工、機械ですね、そうしたものもずっと補助してまいりましたし、支援してまいりましたので、今

後とも、先ほど市長が言いましたように、ブラッシュアップして、六次産業化を今後も進めていくことによって、一次産業の生産者の所得が上がってくるのではないかというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

課長は、お米の話をされましたけども、米はもちろんですけども、例えば市内ではブルーベリージャムとか、それからケーキ、いわゆる何だ、養鶏場の方がプリンやケーキを作って販売されてる。これ、非常に私は素晴らしいと思うんですね。それでおいしい。こういうものを、また後で商工観光課のほうでお聞きしますけども、こういったものへの、いわゆる支援というものは非常にこれ大事だろうなと思いますので、果物等々の六次産業についても、どうも米は確かに情報あっても、そういった園芸作物等々については、もう少し情報を持ったほうがいいんじゃないかなと、失礼な言い方ですけども、思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、商工観光分野にお聞きします。

市外へ、今の話と共通するんですけども、市外へ販路拡大を求める企業に対する支援策について、行政として取り組んでいるものにはどのようなものがあるか、商工観光課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

おはようございます。

市外への販路拡大の取組につきましては、現在、展示会等への出店補助金、また、販路拡大事業としまして、皆さんにイベント等へ出店していただいて販売していただくもの、また、イベント情報を広く提供しまして、各事業者さんが判断して参加していただくもの等を実施しております。いづれにしても、チャンネルを提供する、またはそういったチャンスを提供するということを進めているというふうにお捉えください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

地元食材等を首都圏へ売り込むことを目的に、以前、なりわいネットワーク推進事業が行われていたと思いますけれども、今それが途絶えているのかな、別の形でやってるかと思えますけども、やる気のある事業者に対しては、今後も事業支援や販路拡大に予算を増額し、協力すべきであると考えますが、課長としては、商工観光課としては、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

なりわいネットワークにつきましては、令和４年度までの活動をもって解散をしております。現在、販路拡大支援事業、または事業者の販路拡大については引き続き支援をしておりますし、事業者がスキルアップをされたいという部分についても、そういったところには支援をさせていただきたいというふうに思っております。議員ご指摘のように、やる気のある方々を集めて活動するというものが、なりわいネットワークでございましたが、少し会員間の温度差等もありまして、一旦終了をしております。

今後も引き続き、そういったやる気のある方々を応援する姿勢は変わりませんが、もう一つ予算のほうの話につきましては、我々としても獲得に向けて成果を示してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○１８番（松尾徹郎君）

今ちょうど予算編成の時期で、今のようなお話を聞いて、市長は、新年度初めて予算をつくるわけですけども、今のような現状をよく把握されて、やはり先ほども繰り返すようですが、一生懸命やってる方々への支援というものを、これ大切にしてほしいなというふうに思います。これは意見として申し上げておきます。

それで、展示会への紹介とか負担をされているということですけども、例えば地元企業の新商品開発や販路拡大支援、あるいは新潟県が特産品をはじめ情報発信基地として、THE NIIGATAを東京の銀座に出展しました。これ、糸魚川市として活用しているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

THE NIIGATAにつきましては、昨年８月にオープンしました新潟県の新しいアンテナショップということで銀座のほうへできております。昨年１０月に糸魚川市のイベントを２日間開催させていただいておりまして、地酒とお米のワークショップ、また、糸魚川の食がなぜおいしいかということを地質学的にトークセッションするというイベントをやっております。２日間で１１０名程度、予約制の販売でしたけれども、１１０名程度の方が参加していただいて、成果はあったものというふうに思っております。今年度も１１月に、また２日間イベントを実施予定でありますので、趣向を凝らしたイベントを提供してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○１８番（松尾徹郎君）

それでは、今のは食のほうの事業だと思うんですけども、例えば新潟産業創造機構（ＮＩＣＯ）あるいは第四北越銀行の関連会社である、地域商社でもあるブリッジにいがた、製造業やそういつ

たサービス関連も入るのかもしれませんが、そういったところへの協力依頼など、行政としての橋渡し、やっているかどうか。あるいは、今後やる予定はないか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

新潟産業創造機構、またはブリッジにいがたなどですが、一部実施している部分もございます。具体的には、糸魚川ものづくりネットワークの会員様が、N I C Oクラブの会員にそのままなのか、ブリッジにいがたにつきましては、昨今、農林水産課も絡むんですけども、市内の棚田の魅力発信ですとか、そういったところで連携しないかということで活用させていただいております。

ただ、より効果的に、まだまだ活用いただけるというふうに思っておりますので、そういった部分は広めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

昨年だったと思いますけれども、長野県では、自治体間同士で、地元の物産を輸出する目的で、一般社団法人長野欧州貿易機構が設立され、昨年度、当市に出展の依頼があったと思います。費用面で参加しなかったとは思いますが、今後について、このようなお話があったとき、私は糸魚川市としても参加することがよいのではないかなと思っています。このイベントは、フランスのパリでされると。シンガポールで受けた以上に、フランスで受けると、もう国際的に有名になるということで、食材等々、長野県のお酒も含めてやっているということで、糸魚川も、今のお話じゃないですけどお酒とか、いわゆる食べ物でも地元産品、そういったものでも非常に効果があるのではないかなと思いますけども、いわゆるビジネスチャンスをつかむための支援として、こういったものにも積極的に参加するべきではないのかなと思いますけど、市長、これについてはどのように思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

議員仰せのとおり、ビジネスチャンスをつかむということについては、神様の後ろ髪をつかむぐらい難しいんですけども、実際、私の経験から言えば、海洋高校が独自に開発した商品を海外に売り出そうとして、生徒たちが自ら販売、また、宣伝にいったという経緯があって、当然、N I C Oさんから非常に応援をさせていただきました。

そういう部分を、さらにまた市全体の生産者の皆さんとともに協力しながら、我々ができる限り橋渡しをしながら、いろんな各市に出向いていきたい。特段、今回、関西万博において言えば、そういう動きが非常にありましたので、今度は関西から中京圏、そして関東方面、さらにまた東北、北海道というところに、我々自身に関わってきた人たちをうまく利用しながら、また活用して、相

談しながら進めていけばいいなというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

少し話は替わります。

観光に移りますけれども、市長公約には、観光資源の整備とあります。糸魚川、能生、青海、3地域の特徴を生かした振興策、地域の魅力を引き出し、充実した社会を目指すと思いますが、この点について、具体的に市長にお伺いいたします。

それぞれ個性がありますけれども、市長、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

それぞれ今、糸魚川、能生、青海というふうにして、地域を3分割させていただきましたけれども、私自身がここに生まれ育ってきた中で、それぞれの特色がありながらも、その特色が埋もれてしまったりしている部分をもう一回掘り起こしていかなきゃならない部分と、今、非常に突出している部分をさらに伸ばしていくという部分が、それぞれあると思います。今後、具体的に言うと、いろんな観点があると思うんですけども、取りあえず、今ある、目に見えているものについては、しっかりと、それらをさらに伸ばしていくという部分、埋もれている部分については、掘り返して、それが10年後に結びついていくのかという部分をきちっと検討しなきゃいけない、検証しなきゃいけないと思っています。さらに、特段いろんな議論がある中において、旧糸魚川市街においては、新幹線駅からバイパス、そして広域的な商店街という部分を抱えている部分がございますので、その辺のところに対して、どういうふうな目途を持って、いわゆるにぎわいづくりだとか、立地適正化計画に基づいて対応しなきゃいけないとかという部分をきちんと交通整理しながら、整理整頓しながら進めていって、その中において選択をしていく、集中をしていくという部分に考えております。そういう部分で、ちょっと答えとしては大ざっぱな答えなんですけども、頭の中にはいろんな部分がありますので、順次、それらを皆さんにお示しできればいいかなと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

例えばちょっと能生地域だけについてお話というか質問させていただきますけども、市長は、先月ですかね、SEA TO SUMMIT出られて、能生の海のよさもまた感じたんじゃないかなと思います。

能生地域は、海が必要条件であるならば、山、いわゆるスキー場等、これは山は十分条件というふう考えた場合に、2つの第三セクターがあります。マリンドリームは、ご存じのように、非常に活況を呈してますけれども、スキー場は非常に今のところは厳しいと。

しかし、少し昨年の決算を見ますと、スキー場は、ようやく黒字になったということなんですけれども、まだまだ厳しさは続くだろうと思いますけれども。白馬村のスキー場が、非常に飽和状態になってきてると、お客様で。そういったもの、それから妙高等を考えたときに、やはり糸魚川市としても、いわゆる属科してないということを考えたときに、やり方によっては非常に、今後、期待できると私は個人的に思っておりますけども、市長は、それについて、今後も存続させ、もちろんスキー場に対する考え方、積極的に取り組みたいというふうに思っておられるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

非常に有用な財産であるということは認識しております。

ただ、それを使うに当たっては、まず、市民がその部分を利用するという、やっぱりしっかりしたモチベーションをつくらなきゃいけない。それが、私でいう、そういう部分に出向いていく市民が活動していくというチャンスを、さらにやっぱり引き出していきたいという部分が1つあります。

それと、広域連携観光について言えば、現時点では、これ非常に大きな課題だと思っていますし、現時点で進めなければいけないと思っています。当然、妙高、白馬、さらには富山との連携まで含めてやっていく。新幹線駅をしっかりと利用した部分、大糸線の存続の問題も出てくるであろう。いろんな諸問題がその中にある中において、やっぱり糸魚川における資源価値というものをさらにつかんでいく必要があると思います。私自身も、いろんな自治体の首長さんとの交流を経ながら、野沢温泉村なんかも取り入れるような、やっぱり手を伸ばしていく。さらに飛騨高山というところもありますけども、飛騨高山も今、富山との連携を深めようとしていますけども、その飛騨高山にあって、飛騨古川という飛騨市、私がよくよくお話をさせていただきます、ふるさと納税で20億円を稼いでるようなまち、それがいわゆる交流によって新たなルートができる。そういう中において、相手先から訪問もしてもらおう。我々の資源を提供していくというような関係づくりも必要になってくるんじゃないかと。インフラ整備というのが非常に大きな問題になってきますので、そこは、全庁を挙げて、そういう問題に取り組んでいかなきゃいけないと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、市長のほうから広域連携というお話がございましたので、実は、それを質問しようと思ったんですが、それについてちょっと質問いたします。

先日のマスコミ報道で、松本市、金沢市、飛騨高山市の観光連携の記事が載っていました。ご承知のように観光地としては非常にメジャーな場所でありますけれども、こういったところでも連携を図ろうとしている。今、糸魚川市も北アルプス広域観光連携がございまして、また最近では、妙高市がリゾート開発、外国資本で、大手資本で開発されようとしていますけれども、こういったところとの連携、最近では、妙高、上越、糸魚川、佐渡市のほかに第四北越、えちごトキめき鉄道など、妙高リゾート開発にて官民協議会が発足したということもマスコミに、たしか載ってたと思います。糸魚川もそこに参加してるんだらうというふうに思うんですけども、この点について、広域連携を積極的にやりたいというふうに取れたんですけども、この点、現状を観光課長にお聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

松本、飛騨高山、金沢の連携については、本当にメジャーな観光地を結ぶ、さらなる、何といいますかアップデートした取組になるかというふうに思っております。糸魚川は、そういった観光地とちょっとまた一線を画しておりますが、ご指摘の北アルプス日本海広域観光連携会議につきましては、まだまだ動きが弱いといいますか、皆さんに分かりにくい部分があるかと思っております。組織から10年が経過しておりますので、今年度、会のほうで事業内容を見直すということで動くと思っておりますので、また、新しい広域連携を進めてまいりたいと考えております。

もう一方、妙高のリゾート開発の件でございしますが、新聞報道のとおり、糸魚川市も参加させていただいております。現在、広域観光ルートを選定するような部会に参加させていただいております。今後、事業者が事業を進捗していく中で、観光や交通といったコンテンツで必要になる部分を速やかに対応できるように準備を整えてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

ぜひよろしくお願いいたします。

以前にも申し上げた記憶がありますが、当市の観光は、潜在能力は私は実はあると思っております。

しかしながら、後発なだけに、糸魚川市単独での観光振興というものにはまだ時間がかかるだろうと。それだけに白馬村のインバウンド需要や、あるいは妙高リゾート開発などと連携してやっていきたい。そういうまたお考えですのでぜひやっていただきたいんですけども、当市は、申し上げるまでもなく、白馬と妙高と違って海がある。それから、2つの国立公園に挟まれているという、あるいはあるということで、非常にこれは期待できる資源だと思っておりますので、今の広域連携を図ることによって、私は少し時間はかかるかもしれませんが、十分進めていってほしいというふうなことを期待しております。

あと、企業誘致等にもお聞きしたかったんですが、教育のほうに移ります。

教育について、市長公約には、大学専門学校等への連携、それから、具体的にはどのような連携

を考えておられるのか、市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現在、糸魚川市は、大学との連携協定を結んでいるところが、数校というよりも結構あるんです。だから、それを今、非常に埋もれさせている部分があるので、その部分をもう一度きちっとつなぎ直した上で、大学がどのようなニーズを持って糸魚川との連携を取り組みたいのか、そこをきちっと、もう一度、再度、改めて大学との交流を図っていきたいと思います。

先般、早稲田大学の学生が糸魚川に来ました。今まではイベント参加のみの対応だったんですけども、本格的に糸魚川のまちづくりについて提案をしたいということで、約4日ほどかけて、糸魚川に滞在しながら来られております。現時点で、そういうものの大学のカリキュラムの中にそういう単位が入っておりますので、じゃ、その単位を修得する上で、糸魚川市がどうやって提供できるのか。例えばシェアハウスを提供してやって、負担を軽減して、そこを起点に持っていくとかという部分が必要になってくると思います。そういう部分。

それともう一つは、先ほど言ったように医、職、住という、一つの分野別の協定も、これからしていかなければいけないと思っております。そういう部分で、今ちょっと私自身も1つずつ汗をかいて、大学との連携については対応させていただきたいというふうに思っております。そういう部分でもう一度、掘り直してやっていきたい。

ただ、もう一つは今度、高等学校の問題もこれから出てくると思いますので、これから文科省とのいろんな情報を基に、市内3校の高等学校の在り方も含めて対応させていただければと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、市長答弁で埋もれているものを一旦また掘り起こすべく整理をしたいということだと思えます。これぜひやっていただきたいと思います。

そして、公約には、キャンパス誘致についても触れられていたと思うんですけども、これは、当てがあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現在、担当課で農業に関わるキャンパス誘致について進めております。該当大学との事務的な交



渉には入っております。

ただ、そのキャンパスという部分の際においては、大学側の、やっぱりいろんな学生の単位の取り方とか処遇、こちらにキャンパスを置いた段階での住居的な問題だとかいろんなものを解決しなければいけない。それを1つずつ解決するので協定書の中においては、キャンパス誘致に向けての部分をつけ加えて、協定を今、改定してるさなかでございます。

そのほかにも、現時点で海洋高校と連携協定している大学については、これからどういう形でそれをこの市との連携に結びつけていくのか。また、大学と大学をドッキングさせながら、いかに糸魚川という部分について、キャンパス誘致の可能性があるのかという部分も今現在、探っているさなかでありますので、できる限り、その部分については前に進めるようにしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、海洋高校のお話が出ましたが、マスコミ報道によりますと、文科省では、実業高校の高等専門学校化について検討に入ったということですが、例えば県立海洋高校のような特色ある高校については、新潟県と協力しながら、高専化に向けて努力する必要があると思います。以前、そのような動きもあったような気がするんですが、現状どうなのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まだ、これオープンにされてない情報でありますので、具体的には県教育委員会はまだ動いていませんけれども、先般、花角知事との懇談を通して、この高専化の問題については触れております。ぜひ県立海洋高等学校をそういうふうな方向で、高専化に向けての検討をしていただきたいということで、知事のほうからは、教育委員会に一度確認してみますというところまでのお答えはいただいておりますけれども、私もぜひ高専化に向けては、これからの学校再編計画に基づいて、市として県教育委員会のほうにこれから要望をするということで、これ今、日程調整をして、県教育委員会のほうに足を運びたいと思っておりますので、また、その辺のところも情報が徐々に追加される場合においては、皆さんのほうにご提示できるようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

よろしくお願いいたします。

それで、今度、学童、生徒のほうに移りますけれども、公約には、子供たちが学びやすい環境を

整え、学校再編や部活動の地域展開を推進するとありますが、現状について、市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えさせていただきます。

学校再編につきましては、これまでの地域の声を待つというような姿勢から、行政としての考え方や方針を示しまして、住民の皆さんへの理解を求めていくということへの転換をする必要があるというふうに考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

部活動の地域移行についての現状は、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

部活動につきましては、令和8年度から休日の部活動が地域に移行されることになっておるかと思えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

若干補足させていただきます。

先般、新聞紙上でもありましたように、吹奏楽については、市内中学校が合同で、大きな大会に出れるような人数をそろえて、今後、展開していきたいという部分で文化的な活動についてはそういう部分が現実に動いております。スポーツについて言えば、それぞれの、今現時点での中学校においての部活動のこの在り方を、中学校の校長協会から意見をいただいて、できるところから合同的なクラブチーム化を何とか、ということでは現在動いている協議もございますので、それらの輪を広げていくという部分に、その辺のところの展開は、これから広がっていくように考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

少子化によって、我々の子供の頃と違って、もう随分さま変わりで、これは大変な作業だなと思います。

地域クラブ活動への移行において、例えば休日の部活動の課題としては指導者の確保、それから運営費用の課題、それから経済的にゆとりのない家庭の子供たちがどのように参加できるのか。あるいは遠距離からの参加等々、課題は幾つもあるかと思いますが、これについて、市長として行政としてはこういったものに対しては対応したいんだという何か考えがあれば、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

具体的な詳細については、教育委員会のほうで今、どういう体系で先生方の処遇について、また、外部指導者の扱いについては、現時点でそういう部分に対応できるような組み方をしております。まだまだその部分での、いわゆるいろんな教育委員会、県教育委員会、そしてスポーツ団体、そういう部分との再度の調整が必要になってくるので、ちょっとその辺については、全般的に一気に進むということにはなっていない状況と私は理解しています。大本のスポーツ庁自体が、まだ揺らいでいるということでもあります。なかなか県とか市に下りてくるまでは、相当ちょっとまだ時間もかかるんじゃないかと。

ただ、市独自としてそういうものに備えていくという部分については、現担当課のほうで対応をしながら、現時点でやっているところについてはこういうふうにというふうな部分で、実際の運用については、できるところから始めているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合生涯学習課長。〔生涯学習課長 川合三喜八君登壇〕

○生涯学習課長（川合三喜八君）

補足して、お答えいたします。

部活動の地域展開についての課題に向けての解決策につきましては、指導者確保のため、資格取得支援制度及び地域クラブ活動への運営費支援制度を現在設けております。そういった中で、支援策の充実に向けて、現在取り組んでおります。

また、生活困窮者への支援や交通手段の確保などにつきましては、国・県の制度を活用する中で、今後、支援について検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

地域移行した場合の指導者の発掘、これは非常に大変だと思うんですけども、例えば小学校教諭

で体育が専門の教師に、中学校のクラブ指導を兼任してはどうかという考えもあるようにもお聞きするんですけども、この点について、市長の考えはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現時点で新潟市では、そのような形を取っているところもございますので、また、市町村の例、実践を確認しながら、糸魚川市にとってそういうことが可能な部分、そういう人材がいるかどうかという部分を踏まえて、担当課とその部分は調整をしてみたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

よろしく願いいたします。

次に移ります。

公約には、少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制を構築するとあります。学校再編はもちろん、小学校において教科担任制を採用することにより、児童の成績アップとともに、教師の負担軽減が図られるというふうに思いますが、行政側としては、どのようにお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

教科担任制は、加配教員がついた学校と、その一部の教科で実施されております。

効果としましては、学力検査等の結果が改善したというようなこともございます。今後も、加配教員の配置拡充を県に要望してみたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

素人ですので、私は単純に考えとったんですが、先生が非常に少子化の関係で余ってくるだろうというふうに今簡単に思ってるんですけども、そういう中で、糸魚川市教育委員会としては、簡単にこれ、できないんですか、教育長。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

校内事情によって、教職員の定数の人数とか、それから得意教科が発揮できるかどうかとか、いろんなその面でもって調整した中で、各学校で取り入れられる内容については、これは校長裁量で、これは可能でございます。

今ほどこども教育課長が話しましたように、県の加配というふうな部分で、教科専任教員という形でもって配置されることについては、その先生は、もうその専門でやっていていいわけですけど、それ以外にも、ちょっと大規模の学校の中では、校内調整、担任調整、教科担任調整等々含めて、調整を図りながら効果を上げるように施行してる学校等もあります。

以上でございます。

確かにこの経過をたどっていきますというと、非常に子供たちも、より専門的な先生から学びますので、非常に楽しいというようなことの反応、学力もつく。それから、学級担任のレベルからいうと、小学校では全教科やらなきゃいけないのが基本なんですけども、自分の苦手な教科を専任の先生からやってもらうというと、非常に楽になるというか、その部分について、より一層専門性を発揮できる教科専任制度というのは有効であるというふうな部分のところで現場の声からも上がっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

よろしくお願いいたします。

子供たちにとって学校は、学校生活を通じて社会とは何かを学ぶ第一段階であると思います。授業や様々な遊びを通して児童一人一人が、多くの子供たちと触れ合いながら、体験を通して様々な可能性を見つけ出すだろうというふうに思いますけれども、残念ながら少子化により非常に規模が小さくなってきていると。そういう中で、運動会、あるいは球技、あるいは音楽演奏等、非常に限られた人数でやるだけに、非常にそういった面ではやっぱり小規模校の残念なところがあると思うんですが、この学校統合というものに対して、市長として、非常にデリケートな問題ですけども、もうここまできたら行政主導としてやるべきではないのかなというふうに私は思いますけども、市長はどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まさに松尾議員がおっしゃるとおり、もうそういう部分にも直面しております。今、小学校間の統合だけで、単なる人数を増やしてという部分ではなくて、私自身は、今、教育委員会のほうには、これからの在り方について検討してくれという部分で指示をしております。

1つは、小中一貫校、やっぱり小学生と中学生の体力差、経験値の違いはあるかもしれませんが、いずれにしても小学生が中学校に上がる。その前段階として世代間、年齢を超えた教育活動ができるように、一つ移行しながら、最終的には小学校の数が少なくなってくるものについては、地域コミュニティがある中学校区に一つなげていくという方法もあります。具体的なそのつなぎ方については、これから施設の問題も起きてくると思いますので、これについてはしっかりと検討した上で、これからの再編計画に入れながら対応していかなければいけないというふうに思っておりますので、推移をまた確認しながらご対応させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、小中一貫校という言葉が出ましたけれども、実は、私どもも政務活動で、二度ほど東京都の武蔵村山市か、そしてもう一つは、茨城県の土浦だったと思いますけども行ってまいりました。小中一貫校の対象となる地域は、確かにこの糸魚川市内にありますし、私は、いわゆる9年生というものに対して最初は疑問を持つとったんですけども、やはり小さな子供たちが上級生と接することによって、やっぱり知恵をいただくということもあるだけに、これは大いに積極的に検討し、また推進してほしいなというふうに思っております。

今、お話を聞きましたんで、ぜひこれについては、関係地区民にいろいろな情報提供しながら、理解を得るようにお願いしたいと思います。

次に移りますが、今回の9月定例会で学校統合の話がありました。そのときに、議員からも、じゃあ、今後の跡地利用はどうするんだという質問がございました。これにつきましては、私も以前にあるところでお聞きしたような記憶がありますけれども、かつては、能生では権現荘が上能生小学校、そして南中学校が宅地整備に変わってます。いわゆる廃校を活用した、どういうふうにするかという、いわゆる食肉センター造ったりとか、酒蔵を造ったりとかって、全国各地に幾つかある例があるんですけども、これについては、当市も今後、仮にそういった施設ができた場合のことに対応するために、今からそういった、学校とは限りません、公共施設の有効活用については、大いに研究してほしいと思います。

市長にスポーツの件でお聞きしますけれども、ここ最近、糸魚川市内、児童生徒数が減少しているにもかかわらず、近年、当市の子供たちが全国大会へ出場する競技種目が、私は多くなっているような気がいたします、人数の割には。それを考えますと、スポーツ少年団への支援はもちろん、そしてまた、指導者に対する若干の謝礼になるかもしれませんが、そういった対応ですね、そういったものを考慮しながら、予算を増額すべきではないのかなと、私は前から思ってるんですけども、市長はどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

まず、予算の増額というのと、やっぱり組織の確保、それには指導者の確保というのは、大事なことだと思うんですけども、私自身が今当たってるっていいですか、いろんなお話を聞いている、スポーツ少年団的な活動をしているところについては、お金の問題ではなくて、自分たちが本気になって子供たちと接触してやりたいんだ。できるだけそういう、今度は環境的な部分でお願いをしたいという声も上がってきております。当然、それに対する、いわゆる負担してくれる部分については、何らかの対応が必要だと思いますんで、今後の予算編成の中でどういう形でその部分を担ってやれるのかについては、担当課とも検討し、全庁の中でその部分について選択、または集中できるという合意が得た上で対応できる問題だと思っております。

スポーツを通じた子供たち、児童生徒、大人も含めた、やっぱり活力あるまちづくりについては、異論のないところでございますので、ぜひそういう部分は、応援していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、活力というお話が出ましたけども、確かにスポーツで子供たちが活躍すると、地元の人たちに勇気と感動と、非常に地域にとってはいい影響を与えるというふうに私は思っております。

かつて、今から50年、もっと前かな、50年前かな、糸魚川商工が甲子園に出たとき、地域はやっぱり一丸となりましたね。やっぱりそういうスポーツのよさ、これをやっぱり大事にしてほしいなと。これは確かにお金の問題じゃありません。要するに指導者もそうですし、その子供たちに教えているその指導者たちが、休日を割いて一生懸命やってる。別にその方々は、お金は云々だと思います。何も関係ないというふうに思ってますけども。それら等を考えたときに、スポーツ少年団全体への支援という形での対応をお願いしたいと。何も謝礼にこだわる必要ありません。そういった意味での予算増額を私はお願いしたいなというふうに思います。

スポーツ関連においても、まだお聞きしたかったんですが、今のこの子供たちのスポーツだけではなくて、いわゆる地域コミュニティの充実を図る意味でも、スポーツ協会へのやはり支援というか対応、これも考えてもいいんじゃないか。特に縮充という言葉の中では、私はソフト面の事業としては充足すべきものではないのかなというふうに思いますので、これは検討課題として、新年度予算に反映できることを期待しております。

まだまだ教育関係、特に保育園、あるいは行政改革等にお聞きしたかったんですが、時間もございませんので、また別の機会にお聞きしたいと思います。

どうか市長におかれましては、今これから新年度予算の編成に入ります。大いに市長のカラーを出していただいて、市政運営、期待しておりますので、よろしく願いして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

それでは引き続き、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕